

発達を見る眼をゆたかに、 おおらかに

第2回

子どものねがいを
大切にすする支援、
子どもの思いを
つなぐ支援

——3歳児の「揺れるところ」



鳥取大学
寺川志奈子

てらかわ しなこ／鳥取大学地域学部。研究テーマは「子どもの自我、自己、および社会性の発達と教育的支援」について。共著に『自閉症児・発達障害児の教育目標・教育評価1 子どもの「ねがい」と授業づくり』(クリエイツかもがわ) など

「大きい自分になりたい」ねがいを大切にすするかかわり

3歳の律くんは、近頃「律くんがしてあげようか」が口癖になっていて、自分のことはさておき、友だちにお節介を焼きたがります。自分が遊んでいたおもちゃはほったらかしたままで、友だちが片付けようとしているところに「律くんがしてあげる」と手を出しにくといった様子です。また、困ったことに律くんは、クラスの中で泣いている友だちの声が聞こえてくると、正義の味方アンパンマンになりきったつもりなのか走って行って、その場の状況もよくわからないままに泣いている子どもの近くにいる子にアンパンチをしようとしてしまうのです。

いずれも大人は「ダメでしょ」と言って聞かせたくなるような場面です。けれども、3歳児は叱られて何だかいけない状況だということは感じながらも、言葉でいろいろと言われてもまだ相手の気持ちや状況を十分に理解できないことが多いのではないのでしょうか。にもかかわらず、よくわかっているのに「ゴメンナサイ」と言って落ち着いたことになってしまふことがあるかもしれません。このような場面では3歳児に大人はどう向き合えばよいのでしょうか。律くんにかかわっておられた保育士さんからすてきなかわり方のヒントを教えてくださいました。

クラスの誰かが泣き始めるとそろそろ律くんがアンパンチに走っていく頃だと予測できるようになった保育士は、できるだけ先回りして泣いている子のそばに行くようにしませんでした。急にお母さんのことを思い出して「うちの人のお母さんがいい」を繰り返しながらしくしくと泣き始めたことがありました。また別の3歳児は、保育参観が終わって、お母さんが赤ちゃんと一緒に家に帰ってしまつた後、「お母さ〜ん」と大泣きを始めたことがありました。どちらもしばらくすると気持ちが切り替わって、友だちとの遊びにいつもの笑顔が戻ったのですが、いつもは自信満々にみえる3歳児であってもやはりまだ3歳。こうした「揺れるところ」はどの3歳児にも起こりうる。当たり前の幼さだと受けとめることが大切なのではないか思います。

そんな「揺れるところ」は、たとえば保護者さんがたくさん来られる発表会の時に現れる子どもたちもいます。生活発表会の本番中にひとりの3歳児が「お母さ〜ん」と小上がりから客席に降りて、お母さんの元に向かって行ってしまいました。まさか最初に飛び出すとは思いませんでした。数人の3歳児が後に続いて保護者の元に向かっていきました。子どもたちが保護者とタッチをしてすぐに舞台に戻ってきた中で、ひとりだけはお母さんと離れられずに舞台に戻ってしまいました。保育士が抱っこして連れ戻そうとしてもお母さんにしがみついて離れません。ずっとお母さんのおひざにいたままその会が終わってしまいました。お母さんとしてはみんなと同じようにちゃんとしないうわが子を見るのはとても気まずく、つらい思いをされたようです。

その後、園では「子どもが舞台から飛び出すことがあるか

た。そして、走ってきた律くんに「助けに来てくれてありがとう。こっちは先生に任せてね。アンパンマンの律くんは泣いている〇〇ちゃんによしよししてあげてね」とお願いするようにしたそうです。もともと律くんのアンパンチは、正義の味方の「かっこいい自分になりたい」ねがいから出てきたものです。それを3歳児なりの幼いやり方で精一杯示そうとしていくのですから、その思いをまずは受けとめ、いいやり方で実現できるように導いてあげることが大切ではないかと考えられた支援でした。同様に、律くんのお節介焼きについても、「お友だちのお手伝いをしてくれてありがとう。お兄さんみたいな律くんはお手伝いが済んだら自分のおもちゃもかっこよく片付けるところを見せてくれるよね」といったふうに促すよう心がけられたそうです。

行動の背景にある子どもの思いに寄り添いながら、3歳児の「大きい自分になりたい」ねがいをすてきな自分を見せる形で実現していくことへと導く支援のあり方を示してくださいましたように思います。お友だちを慰めてあげた律くんは「助けてくれてありがとう。かっこよかったよ」と先生にほめてもらって、ポーズを決めて誇らしげだったそうです。

3歳児の「揺れるところ」をみんなでゆったり見守る

「大きい自分になりたい」3歳児ですが、いつもいつもちかっこいい自分を見せたい気持ちでいられるわけではありません。赤ちゃんみたいに甘えなくなる時もあります。保育も一年の後半期に入ったある日、3歳児が何がきっかけかはわか